



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.8.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

知力とは「似たものを見つける力」



『クリエイティブの授
業』（オースティン・クレ
オン著、実務教育出版）と
いう本があります。若きア
ーティストに向けて書か
れたアドバイス集です。

クリエイティブというと、この世でただ一つ
の希少なものといったイメージがあります。し
かしこの本で紹介される著名な芸術家たちのア
ドバイスは、予想を裏切ります。



ウィルソン・ミズナー(劇作家)
「一人の作家をコピーするのは盗作だが
何人もの作家をコピーするのは研究だ」



パブロ・ピカソ(画家)
「芸術とは盗むものだ」



デヴィッド・ボウイ(音楽家)
「僕がじっくり鑑賞するのは
盗めるところがある作品だけだね」



ゲイリー・パンター(漫画家)
「たった1人の影響しか受けていなければ
君は、第2の〇〇と呼ばれるだろう。
だが100人から盗んでしまえば
君は「オリジナルだ！」と言われるのだ」



コービー・ブライアント(NBA)
「新しい動きなんてない。僕の動きはどれも
一流選手たちから盗んだものばかりさ。
僕は報いたいんだ。動きを教えてくれた
先人たちにね」



ジョナサン・レセム(小説家)
「何かを“オリジナル”と呼ぶやつは
十中八九、元ネタを知らないだけだ」



サルバドール・ダリ(画家)
「何もまねしたくないなんて言っている人は
何も作れない」



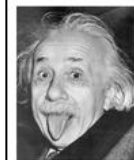
アンドレ・ジイド(小説家)
「言うべきことはすでに誰かが言っている。
だが聞いている人がいなかったばかりに
言い直す羽目になるのだ」



**ウィリアム・ラルフ・イング
(神学者)**
「オリジナリティとは何か？
バレない盗作である」



山本耀司(デザイナー)
「いいと思ったものをコピーしよう。
コピー、コピー、ひたすらコピー。
その先に自分が見つかる」



アインシュタイン(物理学者)
「創造的である秘訣は
出所を隠す方法を知ることだ」

なんだか強烈です。いずれもその道のプロフ
ェSSIONALの言葉なので説得力があります。
彼らが言わんとしていることは、

模倣する心の構え

ではないかと私は思います。

知的好奇心

探究する心

ホンモノを求める心

そして「自分とは何か？」

デザイナーの山本耀司さんの言うように、ひ
たすら行う模倣の先にある自分自身の発見です。
問題なのは、模倣が中途半端で終わってしまう
ことです。徹底するのです。「まねし続ける＝学
び続ける」ということです。学び続ける謙虚さ
とでもいいましょうか。その先に、個々のオリ

ジナリティが見えてくるのでしょう。

なぜ「模倣」が必要なのか？私たちは無目的に（あるいはお手本なしに）行動することがとても難しいのです。サルバドル・ダリのように、「模倣さえしない」ことには何も始まりません。自己認識への出発点なのです。

自分を知るためには、まず他者のまねをしなければならぬ。この「あたりまえ」のことを「幼児教育・遊び」は気づかせてくれます。

私は「遊び」について説明するときに

「似たものを見つける力」

というキーワードを使います。子どもは家で食事を作るお母さんをじっと観察します。そして園にあるおもちゃを見て、家での記憶を引き出す、再現する。「ごっこ遊び」の始まりです。



子どもはお庭でスズメを見ます。カラスを見ます。しかしその間の「鳥類」という関係は目に見えません。これは抽象的概念になります。具体的な「スズメ」「カラス」の上位概念である「鳥」を認識するには「似たものを見つける力」が求められます。

「鳴くね」「飛ぶね」「足が2本だね」という類似性の発見から始まり、それをベースに類推していく。考えの幅を広げていく。これがまさに「知力」です。ごっこ遊びには深い意味があります。

似たもの（類似性）に気づく・似たものを見つけるその先に、他と違うもの（オリジナリティ）の発見があります。先に紹介した芸術家たちが言いたかったことはこれなのです。

ところで「似たものを見つける力」が質的に変化するようすを観察した面白い研究がありま

す。お茶の水大学の内田先生の研究です。



未知の言語という設定で「恐竜語」というものを作ります。その恐竜語でゲームをします。

フェプ



「ニンジンのことを恐竜語で『フェプ』といいます。では次の3つの中

で、同じく『フェプ』と呼べるものを選んでください」と問いかけます。

同じく「フェプ」と呼べるものはどれか？



じゃがいも



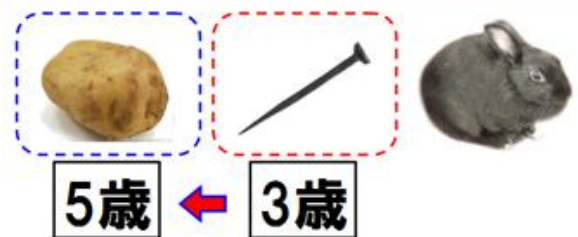
くぎ



うさぎ

3歳児だと「くぎ」を指して「フェプ」だといいます。表面的な、単なる見た目で「似たもの」を認識したわけです。

同じく「フェプ」と呼べるものはどれか？



ところが、5歳くらいになると、じゃがいものことを「フェプ」だという子どもが増えます。目に見える「形状の類似」でなく、目に見えない「関係性の類似」が認識できたのです。「似たものを見つける力」の質的変化です。

さらにその先にあるのが、「似たもの」→「違うもの」へ。独創性や個の確立の前には、模倣があります。それは子どもから大人まで一緒なのです。

(終)